

平成 29 年奈良市観光入込客数調査報告
～【参考値】観光消費額の変更について～

- 平成 29 年の奈良市観光入込客数調査報告は、平成 30 年 7 月 24 日に公表したところですが、参考値としている観光消費額については、「観光入込客に関する共通基準」に基づき奈良県が実施・公表しているデータの公表時期が異なることから、前年(平成 28 年)の観光消費額単価を使用して推計しておりました。

この度、奈良県の平成 29 年データが既に公表されていることに伴い、奈良市観光入込客数調査報告書中の観光消費額を変更することとしました。

<変更点>

(観光消費額)

- ・ 平成 29 年の奈良県における観光消費額単価は、宿泊客が 24,484 円、日帰り客が 4,731 円となります。これを奈良市の観光入込客数に乗じて、奈良市内の観光消費額を推計すると、約 1,129 億円となり、前年の約 1,036 億円から約 93 億円増となります。

(うち外国人の観光消費額)

- ・ 平成 29 年の奈良県における外国人の観光消費額は、宿泊客が 14,233 円、日帰り客が 8,103 円となります。これを奈良市の外国人観光入込客数に乗じて奈良市内の外国人観光消費額を推計すると、約 179 億円となり、前年の約 155 億円から 24 億円増となります。

詳細は、報告書をご参照ください。

平成 29 年 奈良市観光入込客数について

1. 概要

平成 29 年に奈良市を訪れた観光客は、1,631.4 万人と、前年の 1,554.3 万人に比べて 77.1 万人（4.96%）増加しました。

一般観光客数は、宿泊客が 140.7 万人で対前年比 16.19%増、日帰り客が 1,209.2 万人で 1.73%増、合計すると 1,349.9 万人で 3.06%の増となりました。

修学旅行で奈良市を訪れた観光客数は宿泊、日帰りともに減少し、合計で 5.06%の減少となりました。

外国人観光客数は、宿泊客が 28.6 万人で対前年比 13.49%増、日帰り客が 170.4 万人で 28.70%増、全体は 199 万人で 26.27%増と大幅に増加しました。

表 1 奈良市観光入込客数

種別		平成 28 年 (万人)	平成 29 年 (万人)	増減 (万人)	増減率 (%)
一般	宿泊	121.1	140.7	19.6	16.19
	日帰	1,188.7	1,209.2	20.5	1.73
	計	1,309.8	1,349.9	40.1	3.06
修学旅行	宿泊	11.9	11.3	▲0.6	▲5.04
	日帰	75.0	71.2	▲3.8	▲5.07
	計	86.9	82.5	▲4.4	▲5.06
外国人	宿泊	25.2	28.6	3.4	13.49
	日帰	132.4	170.4	38.0	28.70
	計	157.6	199.0	41.4	26.27
合計	宿泊	158.2	180.6	22.4	14.16
	日帰	1,396.1	1,450.8	54.7	3.92
	計	1,554.3	1,631.4	77.1	4.96

2. 平成 29 年 奈良市の観光の状況

(1) 全国の概況

観光庁の「旅行・観光消費動向調査」によると、平成 29 年の国内宿泊旅行者数は 3 億 2,346 万人で前年比 0.7%減、国内日帰り旅行者数は 3 億 2,373 万人で前年比 2.6%増となりました。景気回復が続く中、旅行者数は全体でわずかに増加傾向にありますが、10 月の大雨や台風が、国内宿泊旅行にはマイナスに影響したと考えられます。

一方、平成 29 年の訪日外国人旅行者数は 2,869 万 1,073 人で前年比 19.3%増と、引き続き好調を維持しており、旅行消費額は 4 兆 4,162 億円（前年比 17.8%増）と、初めて 4 兆円を突破しました。

(2) 奈良市の観光に関する主な出来事

2 月 世界遺産を含む社寺などをお茶席会場とし、7 つの茶道流派が一堂に会する「第五回 珠光茶会」が開催され、6 日間で 8,338 人の来場者を迎えました。

6 月 奈良市観光センターが「NARANICLE (ナラニクル)」という愛称でリニューアルオープンしました。

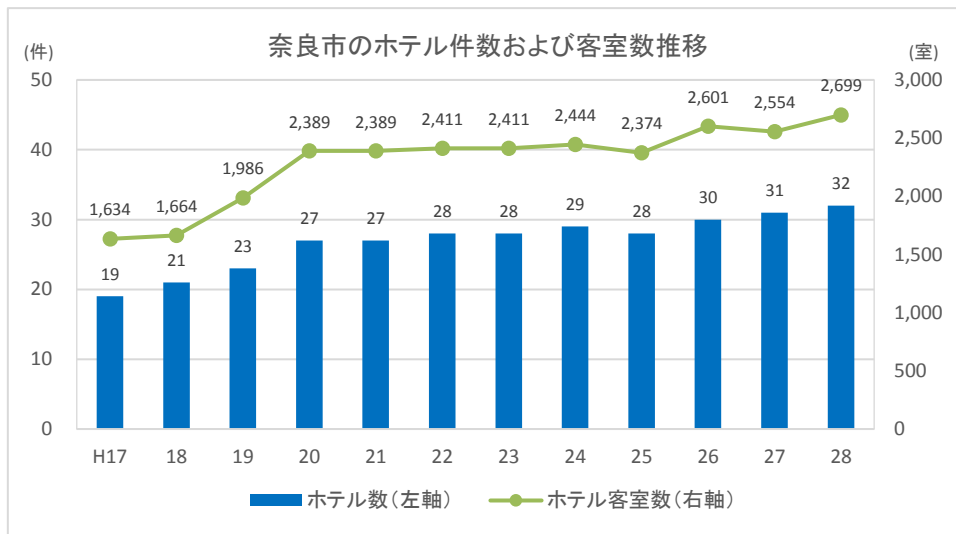
7 月 明治政府が建設した五大監獄（千葉、長崎、鹿児島、金沢、奈良）のうち唯一現存する国の重要文化財「奈良少年刑務所」が、3 月に閉鎖されてホテル等に改装・活用されることが決定したことに伴い、改装前の最後の見学会が 7 月に開催され、約 1 万人が参加しました。旧刑務所の建物がホテルとして活用されるのは、国内で初となります。（2020 年に開業予定）

9 月 「第 32 回 国民文化祭・なら 2017」と「第 17 回 全国障害者芸術・文化祭なら大会」が全国で初めて一体開催されました。3 ヶ月にわたり県内市町村で 800 超の事業が展開され、約 142 万 4 千人が参加しました。

(3) 観光客数（全体）

平成 29 年の奈良市の宿泊客数は 180.6 万人と、前年（158.2 万人）に比べて 14.16%増加しました。大幅に増加した要因として、JR 奈良駅付近をはじめ、複数のホテルが新設されたことが考えられます。奈良市内ホテル件数の推移を見ると、10 年で 10 件以上増えており、今後も新設予定のホテルもあることから、宿泊客数の更なる増加が見込まれます。

図 1 奈良市のホテル件数および客室数推移



出典：厚生労働省「衛生行政報告例」

また、各移動手段別の平成 29 年の観光客数を平成 28 年と比較すると、軌道は前年比 4.44% の増、モーターリ-は前年比 5.87% の増と、どちらも増加しております。内訳を見ますと、普通車での入込客数が 7.3 万人 (4.52%) の減だったのに対し、バスが 40.4 万人 (10.07%) の増となっており、昨年 (平成 28 年) と同様、自家用車での旅行者が減少する一方、訪日外国人の団体客をはじめとしたバスでの旅行者が増加しているものと推察されます。

表 2 移動手段別観光客数

		平成 28 年 (万人)	平成 29 年 (万人)	増減 (万人)	増減率 (%)
軌道別	近鉄 ^{※1}	711.0	748.1	37.1	5.22
	JR ^{※1}	279.6	286.5	6.9	2.47
	(小計)	990.6	1,034.6	44.0	4.44
モーターリ-別	普通車	161.7	154.4	▲7.3	▲4.52
	バス	401.3	441.7	40.4	10.07
	二輪車	0.7	0.7	0	0
	(小計)	563.7	596.8	33.1	5.87
計		1,554.3	1,631.4	77.1	4.96

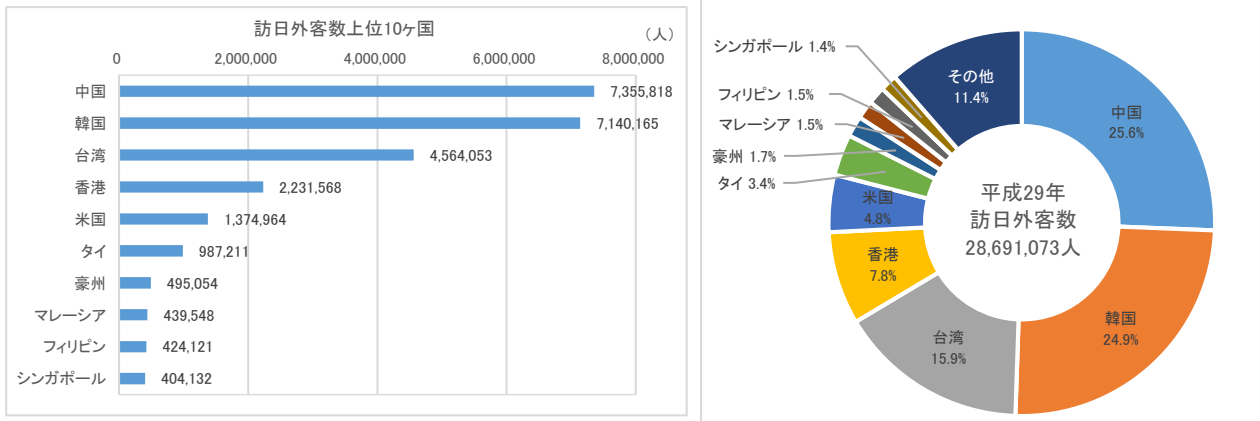
※1 近鉄及び JR の入込客数は推計

(4) 外国人観光客数

JNTO（日本政府観光局）の発表によると、平成29年に日本を訪れた観光客は2,869.1万人で前年比19.3%増となり、5年連続で過去最高を更新しました。国内や海外の航空路線の拡充やクルーズ船寄港数の増加等が理由として考えられます。

国籍・地域別では、韓国が格安航空会社の新規就航を背景に714万人と前年比40.3%増と大幅に増加し、その他中国、台湾、香港で全体の74.2%を占めております。

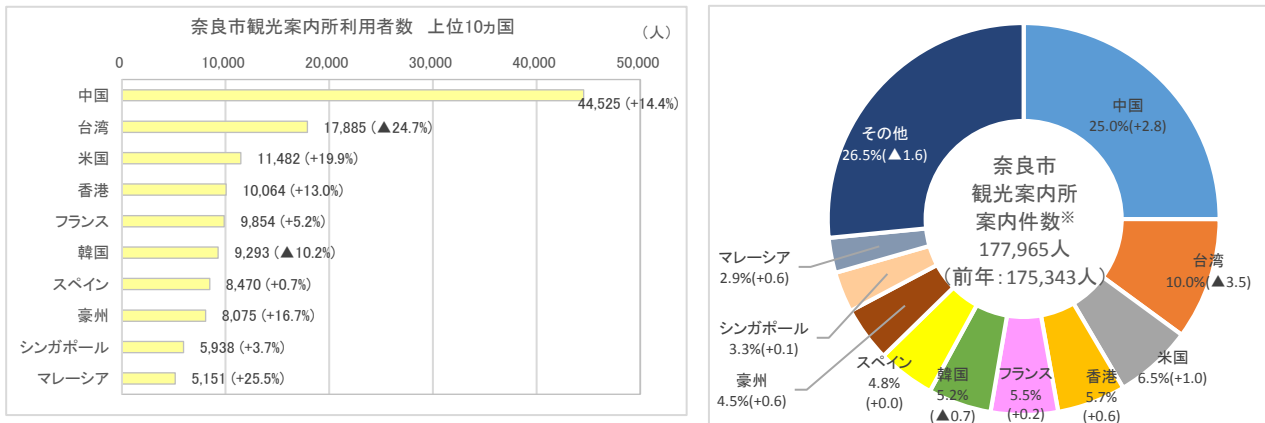
表3 国籍・地域別訪日外客数



資料：訪日外客統計（日本政府観光局（JNTO））のデータをもとに奈良市作成

一方、奈良市の観光案内所における観光案内件数※2を見ると、中国が最も多く（4.5万人）、全体の25.0%を占める一方、訪日外客数の国籍別割合に比べて韓国（0.9万人、5.2%）の割合が低く、米国（1.1万人、6.5%）、フランス（0.9万人、5.5%）、スペイン（0.8万人、4.8%）、オーストラリア（0.8万人、4.5%）の割合が高く、欧米豪の観光客が多く訪れていることが特徴です。

表4 国籍・地域別奈良市観光案内所案内件数



※2 奈良市総合観光案内所および近鉄奈良駅観光案内所での案内件数合算値

奈良市観光センターは平成29年6月にNARANICLEにリニューアルされたため、本データには含まれていない。

【トピックス】奈良を訪れる外国人旅行者の周遊ルートについて

外国人観光客のリピーター増加に伴い、ゴールデンルート（東京～京都～大阪）以外の地方へ訪れる外国人観光客が増えています。多様化する外国人観光客の周遊ルートを把握するため、国ではFF-Data（訪日外国人流動データ）が作成・公表されていることから、最新データ（2016年データ）を用いて、外国人観光客が「どこから奈良に訪れ、奈良からどこへ向かっているか」を定量的に把握することとしました。

① FF-Data（2016）からの集計

奈良県を出発地^{※3}または目的地^{※3}とするデータを抽出し、出発地別、目的地別に集計しました。

※3「出発地」は「奈良県を訪問する直前に滞在した都道府県」を、「目的地」は「奈良県を訪問した直後に向かった都道府県」を示す。なお、空港については「入国後すぐ奈良を訪問」または「奈良を訪問後に出国」したことを示す。

表5 2016年 出発地及び目的地ランキング（全国籍）

順位	出発地	流動人口(人)	構成比	順位	目的地	流動人口(人)	構成比
1	京都府	629,295	43.3%	1	関西空港	502,640	34.5%
2	大阪府	479,177	33.0%	2	大阪府	266,830	18.3%
3	関西空港	93,458	6.4%	3	京都府	253,175	17.4%
4	兵庫県	92,811	6.4%	4	兵庫県	149,855	10.3%
5	東京都	33,824	2.3%	5	東京都	69,424	4.8%
6	愛知県	22,545	1.6%	6	神奈川県	24,049	1.7%
7	広島県	17,009	1.2%	7	和歌山県	22,766	1.6%
8	和歌山県	13,549	0.9%	8	静岡県	21,370	1.5%
9	神奈川県	10,511	0.7%	9	愛知県	19,032	1.3%
10	静岡県	9,956	0.7%	10	成田空港	16,446	1.1%
-	その他	51,217	3.5%	-	その他	109,660	7.5%
合計		1,453,352	100.0%	合計		1,455,247	100.0%

注：国土交通省「FF-Data」を基に奈良市作成

奈良県内の移動は除く。

まず、出発地（どこから奈良に訪れているか）別に見ると、1位は京都府で629,295人、2位は大阪府で479,177人と、京都府と大阪府で全体の約75%を占めています。関西空港または首都圏から京都、大阪を經由して奈良を訪れる観光客が圧倒的に多いことが分かります。

次に、目的地（奈良からどこへ向かっているか）別に見ると、1位は関西国際空港（関西空港）で502,640人と、全体の34.5%を占めており、次いで大阪府（266,830人、18.3%）、京都府（253,175人、17.4%）となっております。また、兵庫県（149,855人、10.3%）や東京都（69,424人、4.8%）などへ向かう人数が比較的多いのも特徴です。

② 国籍別の傾向

「表3 国籍・地域別訪日外客数」より、上位3ヶ国（中国、台湾、韓国）および「表4 国籍・地域別奈良市観光案内所案内件数」より、欧米豪3ヶ国（アメリカ、フランス、豪州）の出発地／目的地の流動人口を調べました。

表6 国籍別の出発地／目的地別流動人口構成比（中国、台湾、韓国）

【中国】

順位	出発地	流動人口	構成比
1	京都府	232,983	44.3%
2	大阪府	193,074	36.7%
3	関西空港	19,749	3.8%
4	愛知県	17,751	3.4%
5	兵庫県	15,756	3.0%

順位	目的地	流動人口	構成比
1	関西空港	159,220	30.2%
2	大阪府	105,145	20.0%
3	京都府	99,036	18.8%
4	兵庫県	40,891	7.8%
5	東京都	34,128	6.5%

【台湾】

順位	出発地	流動人口	構成比
1	京都府	144,475	46.6%
2	大阪府	88,536	28.6%
3	関西空港	39,410	12.7%
4	兵庫県	31,244	10.1%
5	三重県	1,803	0.6%

順位	目的地	流動人口	構成比
1	関西空港	138,923	44.8%
2	大阪府	52,019	16.8%
3	兵庫県	46,573	15.0%
4	京都府	45,098	14.5%
5	岐阜県	6,256	2.0%

【韓国】

順位	出発地	流動人口	構成比
1	京都府	77,817	42.5%
2	大阪府	76,737	41.9%
3	兵庫県	19,580	10.7%
4	関西空港	6,881	3.8%
5	滋賀県	876	0.5%

順位	目的地	流動人口	構成比
1	関西空港	82,289	44.9%
2	大阪府	40,015	21.8%
3	京都府	35,060	19.1%
4	兵庫県	20,781	11.3%
5	東京都	1,182	0.6%

注：国土交通省「FF-Data」を基に奈良市作成
奈良県内の移動は除く。

アジア圏の上記3ヶ国とも、京都と大阪からの訪問が多く、奈良の訪問の後には関西空港へ向かう観光客が多いことから、滞在中に京都や大阪を中心に近畿圏内を周遊し、奈良を訪問後、関西空港へ向かう観光客が多い傾向にあることが分かります。

表7 国籍別の出発地／目的地別流動人口構成比（米国、フランス、豪州）

【米国】

順位	出発地	流動人口	構成比
1	京都府	15,910	44.8%
2	大阪府	5,731	16.1%
3	東京都	2,735	7.7%
4	関西空港	2,557	7.2%
5	広島県	1,863	5.2%

順位	目的地	流動人口	構成比
1	東京都	5,846	16.7%
2	大阪府	5,725	16.3%
3	関西空港	5,572	15.9%
4	京都府	4,302	12.3%
5	成田空港	3,414	9.7%

【フランス】

順位	出発地	流動人口	構成比
1	京都府	12,605	45.0%
2	大阪府	5,921	21.2%
3	広島県	2,040	7.3%
4	東京都	1,908	6.8%
5	和歌山県	1,265	4.5%

順位	目的地	流動人口	構成比
1	大阪府	5,240	18.9%
2	京都府	4,076	14.7%
3	関西空港	4,020	14.5%
4	東京都	3,179	11.5%
5	広島県	2,285	8.2%

【豪州】

順位	出発地	流動人口	構成比
1	京都府	9,241	45.0%
2	広島県	3,224	15.7%
3	大阪府	2,715	13.2%
4	東京都	1,813	8.8%
5	関西空港	962	4.7%

順位	目的地	流動人口	構成比
1	大阪府	4,385	21.4%
2	京都府	3,883	18.9%
3	関西空港	2,931	14.3%
4	和歌山県	2,040	9.9%
5	東京都	1,892	9.2%

注：国土交通省「FF-Data」を基に奈良市作成
奈良県内の移動は除く。

欧米豪の観光客をアジア圏の観光客と比較すると、アジア圏と同じく京都から訪問している割合が高いですが、広島や東京といった近畿圏外からの訪問が多いことが特徴です。

奈良からの行き先は大阪、京都、関西空港が多いですが、その割合はアジア圏に比べて低く、長期滞在で多くの都道府県を周遊し、途中で奈良へ立ち寄っていることが伺えます。

③ 今後の課題

観光庁「訪日外国人消費動向調査」によると、奈良県での平均泊数は0.8泊と、滞在時間が短いことが課題となっていますが、その原因の1つとして、京都、大阪といった観光都市に近接しており、奈良が「(ゴールデンルート上から)立ち寄れる観光地」として認知されていることが考えられます。

全国各地において外国人観光客の地方誘致が活発になる中、FF-Dataのようなデータを基に、アジア圏からの観光客に向けて訪日旅行の最終目的地としての奈良の魅力を創造すること(次の目的地として関西空港が多い→奈良に前泊して早朝の奈良観光を楽しむコンテンツの作成等)や、奈良を訪問する前に訪れている京都・大阪と魅力の差別化を図る(「立ち寄る観光地」から「拠点となる観光地」へ)など、日本人のみならず、外国人観光客にも「奈良ファン」を創出する奈良独自の取り組みが必要となっています。

- 中国をはじめとするアジア近隣国からの観光客
 - ・ 短期滞在者が多く、リピーターが増加傾向。
 - ・ 京都、大阪から奈良を訪れ、関西空港から帰国する人の割合が比較的高い。
 - リピーターが増加する中、奈良に再訪してもらうための仕組み作りが必要(キャッシュレス決済環境の充実、近畿圏を周遊中もしくは帰国前に必ず奈良に立ち寄りたくなるようなコンテンツの創出)

- 欧米豪からの観光客
 - ・ 日本に長期滞在する観光客が多い→ジャパンレイルパス等を使って日本全国を周遊する観光客が多い。(京都、東京、広島からの流動人口がアジア圏に比べて多い。)
 - ・ ショッピングより歴史文化・体験等に興味がある観光客が多い。
 - 京都にはない魅力の創出、観光資源の磨き上げ及び情報発信が必要。

(5) 修学旅行

表 8 奈良市を訪れた修学旅行生数及び全国の生徒数推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H29→H28 増減率(%)
全国生徒数 (万人)	1,402.2	1,389.0	1,375.4	1,366.3	1,355.5	1,344.1	1,331.7	▲0.93
奈良市を訪れた 修学旅行生数(万人)	81.6	82.5	87.6	89.9	85.5	86.9	82.5	▲5.06

注：奈良市を訪れた修学旅行生数は暦年値、全国生徒数は年度値

出典（全国生徒数）：学校基本調査（文部科学省）

奈良市を訪れる修学旅行生数は対前年比 4.4 万人減（5.06%減）の 82.5 万人となりました。奈良市では平成 18 年より「奈良市東京観光オフィス」が首都圏での教育旅行誘致活動を行っており、平成 29 年は、東京都区内公立中学校 380 校のうち、150 校（39.5%）が奈良市内の旅館やホテルに宿泊しました。

修学旅行生数減少の理由として、まず、全国生徒数が毎年約 10 万人ずつ減少していることが考えられます。また、奈良市東京観光オフィスの報告によると、奈良市内に大人数（150～200 人以上）の修学旅行生を受け入れる施設の確保が困難であることや、依然として京都連泊の固定概念を持っている首都圏の学校や旅行会社が多いといった意見が首都圏の学校から寄せられました。

さらに、平成 31 年より北陸新幹線の連合体利用が可能となることを受け、首都圏において修学旅行の行先予定地を北陸方面へ変更する学校が 10 校程度増える予定であり、今後、奈良市を訪問する修学旅行生がさらに減少する可能性も示唆されます。

こうした厳しい状況の中、平城宮跡歴史公園や、旧奈良少年刑務所の活用事業といった奈良市内の新たな観光資源を活かした教育旅行の企画を積極的に造成することや、首都圏の学校から旅行費用や過密日程等に関する意見も寄せられていることから、市内の各社寺・施設や市外へのアクセスのしやすさや、修学旅行生への負担を考慮し、旅程の余裕といったポイントもアピールしていく必要があります。

【参考】奈良市内の観光消費額

「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき、奈良県が実施した調査結果によると、平成 29 年の奈良県における 1 人あたりの観光消費額は、宿泊が 24,484 円、日帰りが 4,731 円となっております。

上記 1 人あたりの観光消費額に、奈良市の平成 29 年の観光入込客数を乗じて奈良市の観光消費額を推計すると、約 1,129 億円（前年比 93 億円増）となります。

表 9 奈良市の観光消費額（全体）

	観光消費額単価 (奈良県 <u>H29 年値</u>)	観光入込客数 (奈良市 H29 年値)	観光消費額
宿泊客	<u>24,484 円</u>	1,806 千人	<u>442.2 億円</u>
日帰り客	<u>4,731 円</u>	14,508 千人	<u>686.4 億円</u>
合計			<u>1,128.6 億円</u>

表 10 奈良市の観光消費額（うち外国人）

	外国人観光消費額単価 (奈良県 <u>H29 年値</u>)	外国人観光入込客数 (奈良市 H29 年値)	観光消費額
宿泊客	<u>14,233 円</u>	286 千人	<u>40.7 億円</u>
日帰り客	<u>8,103 円</u>	1,704 千人	<u>138.1 億円</u>
合計			<u>178.8 億円</u>